

小青盤四百個 小青碗二千個

硫黄二千五百斤

右、暹羅国に咨す

宣徳十年（一四三五）九月十二日

礼儀の事

咨

1-40-20

琉球国中山王より暹羅国あて、欲沙每等を遣わして公正な交

易を請う咨（一四三六、一〇、一）

琉球国中山王、見げんに礼儀の事の為にす。

微邦は東海に遠居するも、昔より今に及ぶまで貴国と深交するに縁より、通年遣使して微誠を礼献するに、常に珍贖を回惠し、及び四海一家を念おもいて永く往来を通ずるを蒙る。切に照らすに、理として合に特に正使欲沙每等を遣わし、専ら礼物を齎し、前詣して奉謝せしめて以て遠意を表すべし。幸希こいねがわくは海納せよ。更に望むらくは、今差さわす人船の装載する磁器は、両平に胡椒・蘇木等の貨を収買するを寛恤せんことを。回国して大明国に貢するに備えん。煩わづわくは早すみやかに発遣し買売せしめんことを。風かぜに趁おりて回還すれば便益ならん。今、奉献の礼物を將て開坐し移咨す。

施行を請う。須らく咨に至るべき者なり。

今開ひらす

花段五匹 素青段二十四

腰刀五把 彩色扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

小青碗二千個 硫黄二千五百斤大 三千斤小

右、暹羅国に咨す

正統元年（一四三六）十月初一日

礼儀の事

咨

只だ船一隻のみを差さわす 通事鄭智・梁①

徳仲の二人去いく

注（一）梁徳仲 久米村吳江梁氏（亀嶋家）に通事として名があり、

この派遣について記す（『家譜（二）』七五三頁）。

1-40-21

琉球国中山王より（暹羅国あて力）、歩馬結制等を遣わして

速やかな交易を請う咨（一四三七、八、一六）

琉球国中山王、見げんに礼儀の事の為にす。

切に照らして惟うに、貴国と交わりて積つ多年なり。感激の情